

1 主題名 きまりと権利

2 ねらい 自分や自分以外の人をもつ権利について考えを深め、きまりやマナーを守ろうとする態度を育てる。

教材名 「お客様」（出典：「みんなの道徳 5年」学研）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

第5学年及び第6学年の内容項目「規則の尊重」には、「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし義務を果たすこと。」とある。これは低学年の「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。」中学年の「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」を発展させたものであり、中学校の遵法精神、公德心へ発展していくものである。

法や決まり、マナーなどの社会規範を意識して生活することは、自他の権利を守ることにつながる。権利は自分だけのものではなく、他の人の権利でもあることに気づくことが重要であり、その権利を守るためにきまりを守るのが重要であると考ええる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は好奇心が旺盛で元気な児童が多い。楽しいことや興味・関心のあることには進んで取り組める一方、大変なことや面倒なことには背を向ける児童も多い。自己中心的な行動や発言からトラブルに発展することも多く、トラブルが起きている周りで、迷惑だと感じている児童も多いのが現状である。

学級全体としては規範意識も高くないように感じる。自分のまわりに落とし物やゴミがあっても拾わなかったり、静かにするべき時におしゃべりを続けたりする児童も多くいる。基本的なきまりは守れる児童が多いが、自分の思いを優先させてしまう児童が多いのが現状である。

このことから、きまりを守ることは自他の権利を平等に守ることにつながること、きまりは私たちのためにあり守るべきものであると改めて感じさせたい。また、きまりは守るべきだと感じている児童についても、きまりと権利について改めて考える場としたい。さらに、きまりがなくても、自分の周りの人のことを考え、その場に応じたマナーにも自分自身で気づき、身に付けていくことが集団生活や社会では大切であると考えさせていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、きまりを守っていない大人の行動や自分の権利だけを主張する発言から、「わたし」が自分たちの権利や義務について考え始める話である。

話合いの視点を、次の3つの視点から構成する。

①かた車をする男の人をどう思うか。

ここでは、きまりを守ることは大切であるが、自分の気持ちが勝ってしまう時がある人間の弱さを感じとらせ、話し合い、考える。

②「見る権利」は誰の権利か。

ここでは、見る権利は誰の権利であるのか考え、きまりは何のためにあるのか考える。

③きまりだけ守っていれば権利は守られるのか。

ここでは、きまり以外にも権利を守る方法を考え、ねらいとする道徳的価値を深める。

4 学習指導過程

	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 教材への関心を高める。 ○混雑している状況で何かを見るときは はどういう気持ちになるか。	・絶対に見たい。 ・前の人がじゃまだなと思うことがある、	・ねらいとする道徳的価値への方向付けをするために、状況を想起させる。
展開	2 教材の登場人物や条件・状況について知る。		
	<p>わたしは大好きなキャラクターのショーを見るために、両親に頼み込んで遊園地に連れてきてもらった。ショーの始まりを待つ人がだんだん増えてきた。係りの人は注意を呼びかけ、ショーが始まった。</p>		
	3 教材の読み聞かせを聞く。 4 話し合う。 ① かた車をした男の人をどう思うか。	・見たいからかた車をする気持ちがわかる。 ・見たい気持ちはわかるけど、きまりは守ったほうがいいと思う。 ・きまりを守らないのはよくない。	・話の状況がとらえられるように読み聞かせをする。 ・道徳ノートを使用し、自分の考えを明確にさせる。 ☆友達の考えをしっかりと聞き、物事を多面的・多角的に考えることができたか。
	② 「見る権利」は誰の権利だろう。 ・男の人の見る権利 ・かた車をされた子の見る権利 ・「わたし」の見る権利 ・木に登った人の見る権利 ・係の人の立場	・「わたし」も見る権利があるのに。 ・男の人は「わたし」の見る権利を奪っている。 ・係の人はみんなの権利を守るためにきまりを守らせようとしている。	・「見る権利」を4人の視点から考え、自他のもつ権利に気づかせる。 ・係の人の立場からもきまりと権利を考えさせる。
	③きまりだけ守っていれば権利は守られるのか。	・マナーを守る。 ・他の人のことを考える。	・きまりを守る以外にも権利を守るには何ができるか考えさせる。
	5 本時で学んだことを書く。 ・学習して思ったこと、考えたことを書く。	・きまりを守ることは権利を守ること。 ・自分の権利も他の人の権利	・きまりと権利についてじっくり考える時間をとり、自分の言葉で本時をまとめさ

		も大切にしていきたい。	せる。 ☆考えを相手に伝えたり、書いたりすることで、自己の生き方についての考えを深めることができたか。
終末	6 日常生活を振り返り、これからの生活について考える。		・今までの生活を振り返り、これからの自分の生活に目を向けられるようにする。

5 他の教育活動との関連

- ・体育科や外国語活動においては、ルールを守り、互いを尊重しながらゲームができるようにする。
- ・宿泊学習先や社会科見学などの場では、他の人のことを考えた行動をすることができ、その場に応じたマナーを考えた行動がとれるようにする。

6 評価の視点

【物事を多角的・多面的に考えている様子】

- ・友達の考えをしっかりと聞き、物事を多面的・多角的に考えることができたか。
- ・考えを相手に伝えたり、書いたりすることで、自己の生き方についての考えを深めることができたか。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・これまでの自己を見つめ、きまりの大切さを理解することができたか。
- ・自分の権利だけでなく他の人にも権利があることに気づき、その権利を守るためにきまりを守ったりその場に応じたマナーを身に付けたりしようという意欲が高まったか。

7 板書計画

6 / 12 お客様

きまり

混雑している写真	あぶないですから、花だんのフェンスや木に登らないでください。	ショーの間は、お子さんをかた車したりビデオやカメラを頭より上に持ち上げたりしないようにしてください。
----------	--------------------------------	--

かた車をした男の人 = きまりを守っていない

わからない ————— | ————— わかる

きまりは守らないと。

見えないから
しょうがない

見たい気持ちもわかる
けどきまりは守った方がいい。

↑

きまりを守ること = みんなの権利を守ること

係の人

見る権利

男の子

わたし

木に登る人

↑

- ・マナーを守る。
- ・人のことを考えて行動

きまりは守るべき